



1_ 3年間のさまざまな思い出を胸に、堂々と誇らしげに卒業証書を受け取る卒業生 2_ 会場に設置された「べにたかちゃん顔出しパネル」と発案者である卒業生4人。パネルはパレス松風、道の駅しらたかやナ公園、荒砥駅前に設置されているほか、各イベント会場などに設置される 3_ 紅花茶を煮出して作ったべっこう飴。きれいな琥珀色に乱花が散りばめられている

豊かな発想がカタチに——

第2回白鷹中学校卒業証書授与式

3月16日、町立白鷹中学校において第2回目となる卒業証書授与式が挙行され、在校生や先生、保護者、来賓の皆さんなどが見守る中、卒業生たちは思い出のたくさん詰まった学び舎で中学校生活の最後を飾りました。

今年度の卒業生は、旧東西中学校の最後の入学生であり、昨年度に開校した白鷹中学校の新たな歴史とともに創り上げてきた152人。小林宏一郎校長から一人ひとりに「卒業おめでとう」と“深山和紙”の卒業証書が手渡されると、卒業生は誇らしげな表情で受け取りました。そして「日本一の歌声で卒業式」という目標どおり、最後に「旅立ちの日に」を万感の思いで歌い上げ、それぞれの思いを胸に、未来へと鷹のごとく飛び立ちました。

また、この日は3年生が「白鷹創生」をテーマにアイデアを出し、陽光学園で制作された紅花入りべっこう飴の「べにっ子」が卒業生一人ひとりに配られたほか、べにたかちゃんの顔出しパネルの試作品を会場に展示。アイデアを出した生徒たちは「自分たちの考えが形になってうれしい」と喜び合いました。



中高生と地域おこし協力隊による合同報告会開催 学び、気づき、考え、それぞれに——

白鷹町青少年国際交流事業に参加した白鷹中学校及び荒砥高校の生徒と、白鷹町地域おこし協力隊による合同の報告会が3月25日、町産業センターで開かれました。

はじめに青少年国際交流事業の報告が行われ、荒砥高校生4人と白鷹中学校生8人が研修を通して学んだことや感じたこと、世界に目を向けたことで気づいた白鷹町の良さなどを発表。途中で英語を用いたり、ユーモアのあるクイズを出題するなどの工夫も取り入れながら、来場者の興味を引きました。

続く地域おこし協力隊の発表では、隊員5人がそれぞれに自己紹介を行った後に1年間の取り組みを報告。観光や文化財、情報発信、地域コミュニティなどに関わる具体的な活動内容、そして3年間という活動期間の中で今後どのような取り組みを行っていききたいのかを発表しました。

この日は、町内外から約130人が来場。報告会は約4時間に及びましたが、堂々と報告する発表者に対し、真剣なまなざしで耳を傾けていました。



1_ 海外での研修を通し、一回り成長した姿を見せた白鷹中学校と荒砥高校の研修生たち 2_ 来場者の質問に答える地域おこし協力隊の5人 3_ 受付には、協力隊の活動の成果が込められた展示品も飾られた